

ユニセフ
職員

い も と な お こ 井本直歩子さんへの インタビュー

2010年1月、大地震に見舞われた中南米の最貧国ハイチで教育支援に携わるユニセフ職員の井本直歩子さん。2011年3月、東日本大震災へのユニセフの支援活動にも応援派遣され、日本の被災地の子どもたちのためにハイチから駆けつけました。国際協力の道を選んだきっかけやこの仕事にける思いをお伝えします。



©Naoko Imoto ハイチの子どもたちと

Q ハイチ事務所ではどんなお仕事をしていますか？

A ハイチで緊急支援をしている100以上の教育関係の団体の活動を取りまとめ、援助活動が円滑に効率よく回るようコーディネーションの仕事をしています。

Q ハイチ、日本での緊急支援活動はどんなところが大変でしたか？

A ハイチは元々脆弱国家で、基盤に乏しく、例えば学校の支援をしようとしても全ての学校のリストなどは出てこないのです。援助がなかなか進まないのが大変です。日本は地元の人々が日々、身を粉にして働かれていて、スピードも速く、驚きました。ただ、日本では特に東北地方はお年寄りを優先する反面、子どもには我慢をさせる習慣があると感じました。震災後初めてユニセフが子どもの遊び場を避難所に開設した時の子どもたちははしゃぎようは感慨深かったです。



©Naoko Imoto
宮城県石巻市の避難所に設置された「子どもに優しい空間」で子どもたちと遊ぶ井本さん

Q 仕事をしていて嬉しかったこと、つらかったことはどんなことですか？

A 嬉しいときは、災害や戦争で中断していた学校活動が再開する時。つらいのは、政治、経済、システム上の障害があって、自分が無力に感じる時ですね。

Q どうしてユニセフ職員になろうと思ったのですか？

A 水泳選手として海外遠征を繰り返していた中高生の頃から開発援助に興味を持っていました。高校3年だった1994年、ルワンダ大虐殺には非常に動揺して、それから紛争解決や復興を学びました。ルワンダ、シエラレオネ、スリランカを経て、段々と教育分野からすべてを変えていかなければと思うようになり、ユニセフに入りました。

Q ユニセフ職員として働くうえで大切にしていることは？

A 常に子どもを一番に考えること！

Q 日本の子どもたちへメッセージをお願いします。

A 日本の枠に捉われず、世界を意識して視野を広く持ってほしいと思います。



©Naoko Imoto
ユニセフの同僚と

Schedule

ある日のスケジュール

5:45	起床 シャワー、朝食	
6:30	自宅出発 渋滞…	
7:30	オフィス到着 メールチェック	
9:00	会議へ出発	
10:00~12:00	調整会議	
13:00	オフィスへ戻る。昼食	
14:00	会議	
15:00	仕事	
16:30頃	(オフィスが空いてくる時間帯) 仕事に集中	
19:00	退勤	
20:00	帰宅 自炊または外食、自宅にて残業	
22:00	就寝 (ジムに行く暇がないのが悩み…)	

井本直歩子さんプロフィール

1976年生まれ、東京都出身、3歳から水泳を始める
1996年アトランタ五輪800mリレー4位。1994年アジア大会50m自由形優勝。元日本記録保持者。アトランタ五輪後、渡米。1999年サザンメソジスト大学(テキサス州ダラス)卒業。シドニー五輪選考会後現役引退。慶応義塾大学に復学中、執筆活動を開始。スポーツジャーナリストとして雑誌Number等で活躍。
2001年 慶応義塾大学総合政策学部卒業
2003年 マンチェスター大学大学院卒業
2003年~2004年4月 国際協力機構(JICA)インターンとしてガーナ共和国に派遣
2004年~2005年 JICAシエラレオネ企画調査員
2005年~2006年 JICAルワンダ企画調査員
2007年10月より ユニセフ・スリランカ事務所で教育支援を担当
2010年8月より ユニセフ・ハイチ事務所で教育支援を担当